

研究プロジェクト

こころの研究ニュースの発信:こころ学ブログ

平石 界(こころの未来研究センター助教)

■プロジェクトの目的

「こころは目で見ること、触ることも、長さを測ることもできない」。はじめて聴いた心理学の講義でそう言われたときに、いたく感心したことを覚えています。確かに「こころ」は物理的なモノではありません。ずいぶん曖昧模糊とした存在です。それにもかかわらず、私たちはしばしば、自分のこころが分かっている気になります。時には他人のこころが分かった気になったり、他の動物のこころが分かったような気になることすらあります。どうして人間はこうも簡単に「こころ」を分かったような気になるのでしょうか。そしてまた、本当に私たちは「こころ」を正しく理解しているのでしょうか。こうした疑問は、文字に残っているだけでも数千年、おそらくはそのずっと前から、人間のこころを悩ましてきたものではないかと思います(というふうに、昔の人のこころが分かるような気持ちになってしまったりするのです)。

心理学は、この「こころ」という厄介な対象に、可能な限り客観的に、科学的にアプローチしようとする学問です。そのために研究者は数々の工夫を凝らし、実験に参加して下さる方々にトリックをかけ、煙に巻き、時に自分が煙に巻かれ、そうして苦労して、少しずつ「こころ」にかんする研究を積み重ねてきました。本プロジェクトは、そうした心理学(および関連領域)の研究者たちによる研究論文をひととき、固い論文の行間から彼らの苦闘と遊び心を読み取り、皆さんに紹介しよう。それで心理学をもっともっと楽しんでもらえたら、との意図で発進したものです。

どの論文を紹介するか。どうやって紹介するか。執筆者たちに敬意を払い、読者の方々に間違った情報を伝えるこ

とのないよう、論文を精読し記事を書くという作業は、当初思っていたよりも、はるかに困難なものでした。それでもようやく22本の記事を書くことができました。また2010年度からは、twitter用の「つぶやく」ボタンも設置しました。地道に着実に、記事をアップしていきたいと思っていますので、今後とも「こころ学」をどうぞご贔屓に。

■2010年度の記事から

2011年1月13日掲載の記事「上目遣いと女っぽさ」より一部をご紹介します。

＊

皆さん、写真うつりを良くするため、どんなことを気をつけていますか？にっこり笑うとか、目を込めるとか、人によりさまざまな戦略があることと思います。今回は、どんなポーズで写真を撮ると魅力的にみえるか？という研究を紹介してみましょう。

ただし、効果は女性限定です。

と、もったいつけてみましたが、おそらく大半の女性はすでにご存じのことかもしれません。

「うつむき加減から上目遣い」
だそうです。

心理学の研究を見ていると「そんなこと、知ってた」という現象が報告されていることが少なくありません。「別は大真面目な顔して“研究”とか言わなくても、そんなの分かった」という研究。今回のもの、そういうものと言え、そうかもしれません。

しかし一方で、心理学の歴史は、人間の“直感”とか“常識”が、いか

に間違いやすいものであるかも、繰り返して示してきました。だから「そんなん知ってる」という話であっても、やっぱり大真面目に科学的に研究してみる価値はあるのだとヒライシは考えています。

それじゃ「上目遣いすると可愛く見える」という“当たり前”を、研究者はどうやって科学したのでしょうか。

研究したのは、オーストラリアのニューキャッスル大学のDarren Burkeさんと、同じくオーストラリアはMacquarie大学(マケリー大学と読むのでしょうか)のDanielle Sulikowskiさんです。2人は「顔の垂直方向の傾き」が、魅力度、女っぽさ、男っぽさにどう影響しているのかを調べました。

PCの性能向上と、それにともなう各種のソフトウェアの開発が進んだおかげで、現在では、顔写真を加工することがとても簡単になりました。という話は以前にもしました。Burkeさんたちも、こうした恩恵をフルに使って研究をしています。彼らはFaceGenというソフトを使って、同じ人の顔写真を、いろんな傾きかげんに変えて、それで魅力度とか女らしさ／男らしさがどう変わるのか調べたのです。

＊

……つづきはWebサイト上でご確認ください(<http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/jp/kokorogaku/>)。

